

# 令和7年度自主防災組織リーダー育成研修 講義概要

## 1. 地域の災害リスク・特徴・事例

大阪府内8つの地域（豊能、三島、北河内、中河内、南河内、泉北、泉南、大阪市内）ごとにおける地域概要や地形的特徴の紹介、風水害や地震の仕組み、災害別の類型に応じた地域に生じるリスクや特徴、実際の被災事例などが示された。また災害リスクの把握方法として、ハザードマップや河川水位情報など防災に役立つ情報等が紹介され、大阪府内の様々な防災情報を入手することができるツールとして、「大阪防災アプリ」の紹介も行われた。



## 2. 避難所運営・要配慮者支援（ワークショップ）

各ブロックの担当講師により多様な視点から説明が行われた。例えば、自宅から安全に避難するためにも、家具の固定や滑り止めをしっかりと行い、不必要な靴は玄関に出さない等、家の安全対策について説明がされた。また、災害時に必要となる物は季節や個人で異なるため、自らに合った備えをすることや、ローリングストック、分散備蓄の方法も説明された。



他にも、災害時における人間の心の働きとして正常性バイアスの説明があり、この働きの度が過ぎてしまうと、非常事態の際に避難などの対応が遅れてしまうという危険性を大勢と共有した。また、乳幼児や高齢者など、災害時に配慮が必要な方への避難所における支援対応や、女性の視点も含む多様なニーズを取り入れた避難所運営、避難所の機能役割について説明が行われた。今までの



被災地の避難所状況にも関連して、発災後、速やかに避難所の「TKB（トイレ、キッチン、ベッド）」に係る環境整備を行うことが住民の健康を維持する上で必要であるとの説明があり、避難所の国際基準としての「スフィア基準」に関する説明も行われた。特に避難所におけるトイレ環境については、不衛生であると感染症の懸念や、使用を控え、排泄を我慢することが体調不良や災

害関連死につながる恐れにもなるため、清潔な環境を維持できるようトイレの使用ルール等に留意することについて説明があった。さらに、災害時における避難行動要支援者支援に関して、避難行動要支援者名簿への登録や個別避難計画の作成等についても説明があり、全体を通して地域で助け合う支援の仕組みの大切さについて確認が行われた。

続いて、「避難所・避難行動要支援者」をテーマに、クロスロードゲームによるグループワークが行われた。この取り組みでは、様々な意見があること、そして、それら他の方の意見を幅広く聞き入れることが重要であるとの説明がされた。クロスロードゲームは4～6人1組を基本とした班に分かれ、はじめに簡単な自己紹介が行われた後、複数のお題から話合う内容を決めて、受講者の間で意見交換が行われた。



クロスロードゲームでは、避難所における備蓄食配布に関して、配布する理由として、「避難してこられた方に精神的に落ち着いていただく」、「子ども・高齢者など配慮が必要な人から配る」、「今後の活動の為にエネルギーが必要」とする意見があり、一方、配布しないとする理由では、「配布の優先順位を考える必要がある」、「混乱を避ける」、「今後何人くるか分からない」等、様々な意見が出された。グループごとに話し合われた意見について全体発表も行われ、同じお題でも班ごとに異なった回答が発表されることで、重要視したポイントやその理由等、多様な考え方が共有される場となった。

### 3. 男女共同参画・地区防災計画・組織の活性化（ワークショップ）

世界各国と比較した際、ジェンダー・ギャップ指数を示した上で、日本は女性の政治参加と経済参画の割合が低いとの説明があり、多様な視点を取り入れる際のひとつの目標として、意思決定の場に女性が3割以上参画することの意義とその根拠が説明された。地域防災力向上のためには、年齢や性別、立場が異なる住民の多様な視点を取り入れる大切さを確認した。



地区防災計画について、平成25年に災害対策基本法に規定されたことが示され、行政が作成する地域防災計画との関係から、地域住民が主体となって作成する計画である旨の説明があった。地区防災計画の特徴として、①住民からボトムアップ型で作成される計画であること、②住民主役の作成プロセスになっていること、③計画の内容が実践的であることが示され、自分たちの地域を自分たちで守る防災意識向上にも資する制度であるとの話があった。また計画作成にあっては、専門家から意見を貰ったり、橋渡し役としての地区防災計画コーディネータに協力してもらったりする方法についても説明があった。参考となる取組事例として、



堺市中区深井西校区における防災委員会の事例や、同中区東深井校区における PDCA サイクルの事例、美原区黒山校区地区における要配慮者の安否確認体制の構築事例について紹介があった。

男女共同参画に係る観点からワールドカフェスタイルによるワークショップが行われ、班のメンバーを入れ替えつつ、雑談による意見交換と情報共有が行われた。最終的に、男女共同参

画の視点から、地域であつたら楽しいと思う取組みについて班ごとにアイデアを出し合い、参加者全員で投票を行った。「ペット家族用のテントを自分で用意しておく」、「子どもや若い人に参加してもらえよう学校の授業を利用させてもらう」、「カフェを利用した女性の集まりやすい場を作る(ふれあい喫茶)」、「食料班に男性を参入」、「お祭り・イベントを通じた顔の見える関係づくり」、「避難所の運営(男女・外国人)を共に考える」、「防災訓練で炊き出しをする」、「ゲーム感覚で訓練を行い若い世代(女性)をとり込む」等、様々な意見が出された。

また、自主防災組織リーダーの心得として、最新の防災知識・情報を得ること、笑顔を大切に、まじめな雑談といわれるコミュニケーションを行うこと、また地域防災活動は一人ではできないため、仲間の意見を尊重し、信頼できるセカンドを作ること等、自主防災組織の活性化に関するポイントについて説明があった。



#### 4. 自主防災組織の活動促進について

自主防災組織の活動促進を図るため、大阪府が令和6年2月、自主防災組織の取組事例集と PR 動画及び活用手引集を作成したことの紹介があった。事例集には、加入者を増やしたいなど、5つの課題ごとに、計15個の好事例が掲載されていること、PR動画については、組織への加入を呼びかける内容であり、地域のお祭り等のイベントで活用してほしいとの話があった。

他にも、活動に役立つ資料として、総務省消防庁が発行する「自主防災組織の手引」や内閣府男女共同参画局が発行する「女性が力を発揮するこれからの地域防災-ノウハウ・活動事例集-」等の紹介も行われた。

最後に、大阪府内にある様々な防災学習施設についての紹介も行われ、小さな子に防災について興味を持ってもらう場合やコミュニティで防災イベントを実施する際に活用を検討してほしいとの説明がされた。